

# デジタルやグリーンで社会を一新

## 山口県 座談会

いよいよウイスクロナ時代に突入した日本。山口県も新型コロナウイルスで傷んだ社会経済を再生し、活力を取り戻す取り組みを活発に行っている。2022年末には今後の県政運営の指針となる新たな総合計画「やまぐち未来維新プラン」を策定し、「安心で希望と活力に満ちた山口県」実現を目指している。本座談会では産学公金それぞれのトップにお集まりいただき、デジタル（未来技術）やグリーン（脱炭素）など、やまぐち未来維新プラン実現に向けた課題や期待、また地域の魅力を語り合ってもらった。なお発言者以外はマスク着用で実施した。

「ウイスクロナ社会が本格化します。」

村岡 23年の初めに過去最多の5000人超の新規感染者数を記録するなど、コロナはまだ収束していない。ただ社会生活に目を転じると、様相は変わりつつある。大きな影響を受けていた観光分野は「旅々やまぐち割プラス」を実施し、需要の喚起を図った結果、遠方からの観光客が増えてきた。まだ楽観はできないがウイスクロナの考えの下、本年は感染防止対策と社会経済活動の両立を図っていくフェーズに入っている。引き続き県民の命と健康を守ることを大前提に、大きく傷んだ社会経済を回復させる再生の取り組みをスタートさせる。物価高騰に対しても必要な対策を講じていく。

産業面では、デジタル化や脱炭素化といった社会構造の変革の動きをしっかりとつかまえ、変化をチャンスと捉えて未来を見据えた原動力を進める視点が重要だ。22年末には県政運営の新たな指針となる「やまぐち未来維新プラン」を策定した。同プランに沿って、これまで取り組んできた産業・大交流・生活の「3つの維新」を、「安心・安全」「デジタル」「グリーン」「ヒューマン」の四つの視点を踏まえ、さらに進化させていく。

「新たな産業イノベーションの創出や、企業誘致による雇用創出支援といった経済の活性化にも取り組みを行っています。」

村岡 いくつかが柱がある



村岡 嗣政 知事

### 半導体や再生エネ誘致で課題解決

が中でもカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）、デジタル変革（DX）、新産業創出、企業誘致の取り組みについて話したい。まずカーボンニュートラルだが、いろいろな困難はあるが避けて通れない道だ。本県も22年末に50年のカーボンニュートラル宣言を行った。本県は他県と比較して産業分野の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出割合が高いが、7割が産業界からでこれは全国の2倍だ。このためコンピナート企業と危機感やゴールを共有して「やまぐちコンピナート低炭素化構想」を策定した。同構想は排出を減らすことが柱だが、一方で石油化学工業が集積するポテンシャルを生かしたCO<sub>2</sub>の利活用を通じて、新素材や燃料を生み出す。

脱炭素についても産業界野全般にわたる事業者の取り組みを促すため、22年度中に「やまぐち産業脱炭素化戦略」を策定することとし、23年度にスタートさせる。さまざまな課題はあるがこれを契機に多くの業界、企業の参画を促し、成長発展につなげたい。

「デジタル化も重要なテーマです。」

村岡 DXは新ビジネスモデル、サービス創出、生産性向上に大きく寄与する。DX推進の拠点として「Y-BASE（ワイベース）」を山口市内に開設した。ここでは専門スタッフによるDXコンサルや情報通信技術（ICT）環境を活用した実証支援に取り組んでおり、DXコンサルについては150件を超え、さまざまなサービス創出事例も生まれている。また製造現場の管理帳票の作成や管理の自動化に向けたクラウドサービスの導入など、製造現場における生産性向上や経営の効率化への支援にも取り組んでいる。伴走型支援による利用者の満足度はほぼ100%の高い評価を得ている。

またDXを推進するためには、担い手となるデジタル人材の育成が非常に重要となるので、推進のカギとなるデザイン思考や人工知能（AI）、データ利活用などのDX創出に必要な技術の習得に向けた実践型の研修を独自に行っている。本年度から開催した「デザインシンキングカレッジ」には、多くの企業から参加をいただき、2月17日には実践型で4カ月間の長期育成プログラムの最終発表会を行った。修了者にはそれぞれの現場で、利用者視点に立った新たな価値を生み出すビジネスやサービスの開発に取り組み、さらに身に付けた技術やノウハウを広げていただくことを期待している。

「素材産業の集積が高く、新産業を求める声も多いです。」

村岡 環境・エネルギー、医療、バイオ関連産業について、イノベーション推進体制や研究開発補助制度などを活用しながら、県内企業の研究開発・事業化を促進している。産業技術センターに「イノベーション推進センター」を設置し、研究開発テーマの発掘や競争的資金の獲得など、各フェーズに応じた支援を産学公金連携のもとで行っ

脱炭素化 戦 略 業界・企業参画促し成長発展

Y-BASE  
地域課題の解決に向けたデジタル変革（DX）

山口県知事 山口大学学長  
村岡 嗣政氏 谷澤 幸生氏

ている。研究開発は、県内企業の先進的な研究開発を促すため「やまぐちイノベーション推進センター」を設けるなど、持てる結果、14年度以降対応機能を有するエネルギー由来水素シジョンや「抗がん作用を予測できる解析キット」など、120件を超える創業化され、現在も研究開発が進んでいる。イノベーションには人材が欠かせない。村岡 人口減少は大きな課題だが、+



# Y-BASE

地域課題の解決に向けたデジタル変革（DX）を推進する中核施設。デジタル技術の紹介やDXコンサル、人材育成などをフルサポートする。

- ▶所在地 山口市熊野町（ニューメディアプラザ山口10階）
- ▶開館時間 10-17時（事前予約があれば20時まで）
- ▶休館日 土・日曜・祝日
- ▶連絡先 083-921-0010

学や就職時の若者の県外流出が大きい。この流れを断ち切るためには、若者の県内定着に向けた魅力ある雇用の場の創出が重要になる。これまでも積極的な誘致活動を展開しており、22年の企業誘致件数は過去30年間で最も多い40件に達した。私が知事に就任した14年以降では約250件となり、雇用は5500人以上を生み出した。今後は特に投資意欲が旺盛な半導体関連や、脱炭素化に向けた取り組みが加速する蓄電池、再生エネルギー関連などの分野をターゲットに誘致を行うことで、課題解決につなげたい。

## 出席者

- |                    |                         |
|--------------------|-------------------------|
| 山口県知事              | 村岡 嗣政氏                  |
| 山口大学学長             | 谷澤 幸生氏                  |
| 山口フィナンシャルグループ社長CEO | 棕梨 敬介氏                  |
| 東ソー社長              | くわだ 守氏                  |
| テクノウェル社長           | い か ぎ き のりまさ<br>伊ヶ崎 哲成氏 |
| 〈司会〉 日刊工業新聞社 西部支社長 | 石堂 隆史                   |

# 立地するなら山口県 ～産業団地のご紹介～

リスク分散の好適地 東アジアのゲートウェイ 豊富な産業人材



**1 長州出島** 臨海 大規模用地

- 産業エリアと物流エリアが隣接
- 公共岸壁(-12m)あり。東アジアへの展開も視野

分譲中面積 17.6ha 分譲価格 19,600円/㎡～

**2 木屋川工業団地** 工業用水 IC近接

- 高速ICに近く交通アクセス良好(小月IC 約4km)
- 工業用水、電力(110kv)等産業インフラが充実。

分譲中面積 10.0ha(一区画) 分譲価格 55,000円/坪 (個別応談)

**3 小野田・楠企業団地** 補助充実 IC近接

- 高速ICに近く交通アクセス良好(小野田IC 約3km)
- 内陸型産業団地
- 用地所得額の最大80%を補助(適用には条件あり)

分譲中面積 9.8ha 分譲価格(補助後) 4,340円/㎡～



**4 鑄銭司第二団地** 今春分譲開始 IC近接

- 抜群の交通アクセス(山口南IC 約1.7km)
- 維持管理コストの低さ(法面と調整池の維持管理は山口市が行います)
- 用地取得額の40%を補助(適用には条件あり)

分譲中面積 9.3ha 分譲価格(補助後) 12,300円/㎡～

詳しくはネットで検索

山口県 立地

または

お問い合わせ先

山口県商工労働部 企業立地推進課 TEL 083-933-3145  
 山口県東京事務所 東京企業誘致センター TEL 03-3502-3355  
 山口県大阪事務所 大阪企業誘致センター TEL 06-6341-0755





# 産学官で発展的再生目指す

## 山口県 座談会

### 大学を地域のシンクタンクに 谷澤氏

### 水素工場完成、FCVに期待 伊ヶ崎氏

### 脱炭素と事業成長が中期計画 栗田氏



東ソー 栗田守社長

「続いて山口県の課題である人材の育成や産学連携についてお聞きします。」

谷澤 山口大学は23年に「知の創造」として、世界中に貢献する山口大学を目標に掲げた。「明日の山口大学ビジョン2030」を作成した。大学のミッションは研究、教育、社会貢献だが、その中でも特に知の創造、研究は重要だ。これを通じて地域にイノベーションを導くほか、新たな産業を興すことで地方創生に貢献したい。カーボンニュートラルについては、耐熱性菌を使ったアルコール高温発酵技術によるグリーンエネルギー研究が大いに貢献できると期待している。ほかにも人工衛星を使ったビッグデータ解析や、産学連携によるグリーン社会推進研究会などの社会貢献も重要だ。人材育成については変化の激しい時代に対応でき、自ら課題を発見、解決できる人材を育成するため新たな学士課程、大学院課程を計画中だ。地域のシンクタンクとして使ってもらえればありがたい。

山口フィナンシャルグループ(FG)は地方創生

に熱心です。

栗田 地方創生の取り組みは「地域の豊かな未来を共創する」とする当社のパーパス(使命)存在意義そのものだ。このパーパスの理念をステークホルダーの方々に自分事として理解していただきやすくするため、ブランドスローガン「この世界で。この街で。このじぶん。」を定めた。世界の変化が地域と直結している現代において、地域にこそ無限の可能性が広がっているという思いを込めた。パーパスとスローガンを起点とした活動の源泉は社員であり、会社の資本」

「財産」と捉え、女性活躍推進、リスキリング支援など人的資本経営を具体化させる取り組みを進めている。地域共創の具体的な取り組みとして、新たな官民連携手法SIB(ソーシヤル・インパクト・ボンド)について、地銀主催では国内初の「SIB研究会」を立ち上げた。

伊ヶ崎 当社は建設と製造の両事業を抱えているが、コロナの影響で出張工事が行えなくなり大きな影響が出るかと考えていた。ただ在宅勤務の増加に伴いメモリーなど半導体の引き合いが多くなり、半導体製造工場も生産が活発化したことで建設分野の落ち込みは少なくなった。半導体装置メーカー向けの受注は22年半ばがピークだったが、米中摩擦やウクライナ侵攻の影響で世界の消費が落ち込んでいる。一方で面白い話題ではホンダが24年に日本と北米で燃料電池自動車(FCV)を発売する予定と発表した点だ。脱炭素化

の大きな流れとエネルギー価格の高騰を考えたときにFCVの期待は高まる。当社は22年12月に水素エネルギー事業部の専用工場が完成した。FCVの将来に期待している。

## WOLFG 椋梨敬介社長CEO



「大変な

環境下でも大学、企業はさまざまな取り組みを行っています。

村岡 コロナや国際情勢の変化の中で見通しが立てづらい状況だと思ふ。だが本県には素晴らしい産業、企業、大学がある。環境は大きく変わっているが持つる力を別の分野で生かす面もあるだろう。連携して新たな時代に対応できるよう県も支援していきたい。

山口県はDXや脱炭素など、イノベーションの創出を訴えています。

栗田 コンビナートを抱える石油化学メーカーは、カーボンニュートラルの政策に対応するため生き残りかけた取り組みを行っている。ただ、脱炭素の取り組みは一企業でできる話ではなく、産学官連携による支援が必要だ。県にはバイオマス発電など燃料転換に必要な設備のインフラ整備をお願いしたい。また持続可能な人材育成の面から工業高校、高等専門学校の実績も望んでいるが、当社としても地元出身者の雇用強化を進める。イノベーションに関してはコロナでようやく社会貢献できた。今は脱炭素研究で二酸化炭素(CO2)から化学原料をつくる挑戦を始めている。ハードルは高いが、30年までに実用化を判断したい。

椋梨 化学工業が強みの本県にとって、脱炭素は真剣に取り組むべき課題だ。当社は環境面から貢献するため総額224億円のグリーンボンドを22年に発行したが、個人向けの発行は地銀初の取り組みだ。またサステナブルファイナンスの需要も旺盛で、22年4-9月期の実行額は、22年3月期通期実績に迫る1198億円に達した。国連の持続可能な開発目標(SDGs)、環境・社会・企業統治(ESG)にかかわる課題に対してもグループ全体で解決に向けた支援を行っている。地域のDX課題を解決していくためには、まず当社がDXにより変革する必要がある。社員のDXスキル向上にかかる施策を取り組むとともに、大学とのデジタル人材育成に向けた連携協定も進める。

## 地域の豊かな未来を共に創る 椋梨氏

## 県内連携新時代への対応支援 村岡氏



境下でも大学、企業はさまざまな取り組みを行っています。

村岡 コロナや国際情勢変化の中で見通しが立てられない状況だと思う。だが県には素晴らしい産業、業、大学がある。環境は大きく変わっているが持つ力を別の分野で生かす面あるだろう。連携して新たな時代に対応できるようにも支援していきたい。

山口県はDXや脱炭素、イノベーションの創を訴えています。

柴田 コンビナートを抱石油化学メーカーは、

ポニーニートの政対応するため生き残り

けた取り組みを行って。ただ、脱炭素の取り

ば一企業でできる話で、産学官連携による

が必要だ。県にはバイエ発電など燃料転換に

な港湾設備のインフラをお願したい。また

可能な人材育成の面が業高校、高等専門学校

員増も望んでいるが、としても地元出身者の

強化を進める。イノベ

ンに関してはコロナ

試験を例に取ると、30

から研究を行って

19年までずっと赤字で

も考えたが、新型コロ

なややく社会貢献でき

今は脱炭素研究で二酸

素(CO2)から化学をつくる挑戦を始めて、ハードルは高いが、

すでに実用化を判断し

株式会社 **アルモウルド**

産業プラントから精密部品加工・組み立てまで「約束を守る」開発総合メーカー

本社：山口県宇部市際波1770-1  
TEL: 0836-41-1181

本社工場、有帆工場、大塚工場、江汐工場、プラント工場、門司工場




座談会に出席した(右から)椋梨山口、フィナンシャルグループ社長CEO、伊ヶ崎テクノウェル社長、村岡、山口県知事、柴田東ソー社長、谷澤山口大学学長

人間さんよ。

ボクらや、地球のことも、ヨロシクね。

すべてのいのちに、できることを。

人のため、だけではなく、この星のためにできる化学とは、何か、その答えを、見つけ出していくために。

問う。創造する。

TOSOH 東ソー株式会社




山口銀行

この世界で。この街で。このじぶん。

**YMfg**



**じぶんの物語をつまらなく感じたとき。**

地方都市 に生まれた。じぶんにとっては、真ん中だった街。

地方 と 意識したのはいつのときから だったのか。世界の 果てしなさを 知ったとき？ じぶんの物語を つまらなく感じたとき？ ああ そんなことは 誰にもあるよと、 人は言う。

それから いろいろありまして。いま、 地方 と 世界は 近くなった。きもちの問題 ではなくて、望めば動けばそうなる 可能性。望んで動く ことがリアルに大事に なってきた。

地方都市 という 言葉の響きさえも、新たな響きへ。 さあ どう生きる。



# 直面する変化をチャンスに

## TSMCのような誘致期待 伊ヶ崎氏

### 挑戦する風土が地域の魅力

#### 産官の関係と産業人材が強み 棗梨氏

―中堅・中小企業もイノベーション創出は避けられません。



テクノウエル 伊ヶ崎哲成社長

伊ヶ崎 創業当時はパソコンすらなかった時代だが、今や情報量は飛躍的に増えた。一方でモノづくりをどう進化させるかは難しい時代になったと考えている。熟練の職人は減り、中小・零細企業の人材育成は大きな問題だ。DXをしたくてもヒト・モノ・カネすべてが足りない現状では、村岡知事がおっしゃる伴走型支援はありがたい。地域には中小・零細企業が多いので、県主導でM&A（合併・買収）を行い、団結して生産性向上を図るのも一案ではないか。熊本県は台湾積体回路製造（TSMC）が進出することで地域が変わろうとしている。本県にも半導体など新産業の誘致が望まれる。

―最後に山口県の魅力や競争力といったテーマで意見をいただきたいと思えます。

谷澤 産業構造が大きく転換する中で、大学も社会貢献しなければならぬ。現在本学、山口県立大学、山口学芸大学の3大学で大学等連携推進法人の設置を進めている。これは各大学の強みを生かし、DXに強い文系人材の育成が目的で、すでに文部科学省の地域活性化人材育成事業（SPARC）にも採択された。ほかにも共同研究も含めて、企業からいろいろな

山口大学 谷澤幸生学長



―最後に山口県の魅力や競争力といったテーマで意見をいただきたいと思えます。

棗梨 数多くの観光資源、陸海空の優れたインフラ、日本一の工業用水の供給能力、工業系高専が3校あるなど多くの魅力がある。中でも産官学それぞれ

位と聞いており、豊富な産業人材も強みだ。

―村岡知事に総括をお願いします。

谷澤 進学・就職時の県外流出が多いというのは大学の責任も大きい。現在はインターンシップの推進に取り組んでいるが、地元企業の魅力を知らなければ地域に定住しないのでしっかりと取り組むたい。本学には1万人の学生が在籍しているのでアピールしたい。

村岡 コロナで苦しんだ分、これからは単にコロナ前に戻すのではなく、経済や暮らしのレベルをより高めていく「発展的再生」を目指していきたい。そのためには社会全体のデジタル化をしっかりと進めていく必要がある。デジタル化が進み、テレワークなど時間や場所にとわれない、働き方の新しいスタイルが普及してきたことで、地方への新たな人の流れが生まれつつある。この流れを確かなものにするためにも、国の政策と連携しながらデジタル環境の整備に取り組んでいく。今は大きな変化に直面しているがむしろチャンスと捉え、本県が持っているポテンシャルを生かしていくことで、その先に強い産業や豊かな暮らしにつなげていくことができると考えている。産業界の皆さんとも協力して「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現に向け、全力で取り組んでいく。

## 地元企業の魅力を学生に発信 谷澤氏

### 社会全体のデジタル化進める 村岡氏

## 山口県 座談会

すぜんじ  
**山口市鋳銭司第二団地**  
【対象業種】 製造業 ソフトウェア業 自然科学研究所など  
【お問い合わせ】 山口市産業立推進課 083-934-2813  
詳細はこちらから⇒⇒⇒ [山口市産業立地](#) 検索

TAIKO HOLDINGS

### 地方独立行政法人山口県産業技術センター新規導入機器のご紹介

- レーザー顕微鏡  
蒸着・切断・加工などの前処理無しで、対象物の表面形状の観察（非接触）をする機器です。カラー撮影光学系による高精細な表面観察画像と、レーザー光学系による表面凹凸形状の3D測定および表面粗さの評価が可能です。
- 高精度表面粗さ輪郭形状測定機  
製品・部品等の表面性状測定（JIS B0681:2018(三次元粗さ)およびJIS B0601:2013(線粗さ)準拠）、輪郭形状、段差等について触針による接触測定・評価を行うことが可能です。



# すぜんじ 山口市鑄銭司第二団地

【対象業種】 製造業 ソフトウェア業 自然科学研究所など  
 【お問い合わせ】 山口市産業立推進課 083-934-2813  
 詳細はこちらから⇒⇒⇒ [山口市産業立地](#) 検索

## 技術・技能伝承企業

ひびき精機は半導体や航空宇宙など、  
 これからの日本を支える産業に貢献していきます。



Tel 083-288-2208 株式会社ひびき精機 社員募集中  
 mail: info@hibikiseiki.com 下関市菊川町田部186-2 詳しくはHPで!



Make a better flow  
**サステナブルな未来へ。**

www.taiko-hd.com

### 大晃ホールディングス株式会社

〒742-1511 山口県熊毛郡田布施町大字下田布施209-1  
 TEL.0820-52-3111(代) FAX.0820-53-2127

Member of TAIKO HOLDINGS



## 地方独立行政法人山口県産業技術センター 新規導入機器のご紹介

### 1. レーザー顕微鏡

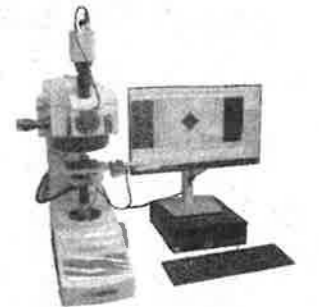
蒸着・切斷・加工などの前処理無しで、対象物の表面形状の観察（非接触）をする機器です。カラー撮影光学系による高精細な表面観察画像と、レーザー光学系による表面凹凸形状の3D測定および表面粗さの評価が可能です。



これらの機器は、(公財)JKAのオートレースの補助を受けて導入しました。

### 2. 高精度表面粗さ輪郭形状測定機

製品・部品等の表面性状測定 (JIS B0681:2018(三次元粗さ)およびJIS B0601:2013(線粗さ)準拠)、輪郭形状、段差等について触針による接触測定・評価を行うことが可能です。



### 3. マイクロビッカース硬度計

金属材料を中心に低荷重でのビッカース硬度を測定する機器です。特に金属部品の熱処理や表面処理(浸炭層深さ測定や硬度分布など)の評価に利用できます。

地方独立行政法人  
**山口県産業技術センター**  
 YAMAGUCHI PREFECTURAL INDUSTRIAL TECHNOLOGY INSTITUTE

### 技術支援部技術相談・支援室

〒755-0195 山口県宇部市あすとぴあ4丁目1番1号  
 Tel:0836-53-5053 Fax:0836-53-5070 E-mail:soudan@iti-yamaguchi.or.jp  
<https://www.iti-yamaguchi.or.jp/>

半導体・医薬品・水素エネルギー・装置ソリューション事業など、  
 豊富な経験と実績に基づく最先端技術でお客様を支えていきます!



あらゆる種類の配管ユニットを  
 ワンストップで  
 製作いたします



クリーンルーム完備の工場で  
 半導体業界の一層の  
 微細化要求に応える



山口工場 水素エネルギー  
 事業部専用工場  
 2022年12月竣工

おもいやりにあふれた、ひと・ものを創る



http://www.technowell.co.jp

柳井工場  
 〒742-0034 山口県柳井市余田1345-1  
 TEL:0820-23-3817 FAX:0820-23-3818

山口工場  
 〒754-0894 山口県山口市佐山10747-10  
 TEL:083-988-3200 FAX:083-988-3201

平生事業所  
 〒742-1104 山口県熊毛郡平生町宇佐木253-4  
 TEL:0820-25-3017 FAX:0820-25-3017

地域社会の  
 未来をデザインし、  
 人々の暮らしを  
 DXで豊かにする。



2022年8月、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学の3大学連携による  
 「ひとや地域(まち・文化・教育)のwell beingに貢献する文系DX人材育成事業」  
 が文部科学省の「地域活性化人材育成事業(SPARC)」に採択されました。

文系DX人材とは ひとや地域の課題の解決のために、デジタル技術やAI技術を活かす方法を創造し、  
 イノベーションにつなげることができる人材。

## SPARCキックオフシンポジウムを開催!

開催内容 基調講演・事業概要報告  
 ・各大学の取組紹介・パネルディスカッション

日時 2023年5月16日(火) 14:00~17:00

会場 KDDI維新ホール 2階会議室

山口県山口市小郡令和1丁目1番1号 [山口大学 SPARC](#) 検索



山口大学公式Twitterもチェック!  
 最新の研究成果を配信中!

